UNIXシステムプログラミング

第11回 クライアント・サーバのための プログラミング(2)

> 2019年12月20日 情報工学科 寺岡文男

タイマによる割込み

- 一定時間ごとに特定の処理をしたい
 - sigaction() または signal() でSIGALRM/SIGVTALRMの処理 関数を登録
 - setitimer()により、指定した時間間隔で SIGALRM/SIGVTALRMを発生
 - mainのスレッドでSIGALRM/SIGVTALRMを待つ場合は pause()を使用
- OSはプロセスに3種類のタイマを提供
 - ITIMER_REAL: 実時間で進むタイマ → SIGALRM
 - ITIMER_VIRTUAL: プロセスが実行状態のときだけ進むタイマ→ SIGVTALRM
 - ITIMER_PROF: 省略

setitimer(): インターバルタイマ

```
#include <sys/time.h>
#define ITIMER_REAL
#define ITIMER_VIRTUAL
#define ITIMER_PROF
int getitimer(int which, struct itimerval *value);
int setitimer(int which, struct itimerval *value,
                       struct itimerval *ovalue);
struct itimerval {
      struct timeval it_interval; // タイマインターバル
      struct timeval it_value; // 現在の値
};
```

setitimer(): インターバルタイマ (cont'd)

- setitimer()の引数
 - int which: 3種類のタイマのうちどれを使うか
 - struct itimerval *value:
 - メンバー it_valueでタイムアウトインターバルを指定
 - メンバーit_valueの内容に0を設定することによりタイマを停止
 - メンバーit_intervalがノンゼロの場合、タイムアウトが発生するごとにこの値がメンバーit_valueに設定される
 - メンバーit_intervalの内容が0の場合は次のタイムアウトにより タイマは停止
 - struct itimerval *ovalue:
 - non nilの場合,以前に設定した値が返される

シグナルの受信待ち (悪い例)

```
01: int alrmflag = 0;
02:
03: void alrm_func()
                      SIGALRMを受信したら
04: {
                      フラグをインクリメント
      alrmflag++;
05:
06: }
07:
                                 SIGALRMを受信したら
08: main()
                                 alrm_func()を実行するように
09: {
                                 設定
10:
      sigaction(SIGARLM, . . .);
11:
12:
13:
      while (alrmflag == 0)
                                ビジーウェイト
→ CPU時間を浪費
14:
      alrmflag = 0;
15:
16:
17: }
```

シグナルの受信待ち(良い例)

```
01: int alrmflag = 0;
02:
03: void alrm_func()
04: {
05: alrmflag++;
06: }
07:
                            SIGALRMを受信したら
08: main()
                            alrm_func()を実行するように
09: {
                            設定
10:
11: sigaction(SIGARLM, . . .);
12:
13: pause();
                          // シグナル受信待ち
     if (alrmflag > 0) { // SIGALRMか?
14:
          15:
16:
                          // SIGALRM受信時の処理
17:
18: }
```

pause(): シグナルの受信待ち

```
#include <unistd.h>
int pause(void);
```

- 機能
 - kill()やsetitimer()などが送信するシグナルの受信を待つ。
 - CPU時間を消費しない
- 返り値
 - 返り値は常に-1

シグナル受信とシステムコール

- シグナルをいつ受信するかは分からない
 - システムコール実行中、ライブラリ関数実行中、通常の処理中、pause()で明示的に待機中、etc.
- システムコール実行中 → 途中で処理を打切り
 - int errno にEINTRが設定される
- signal()でシグナル処理関数を設定, またはsigaction()で SA_RESTARTフラグを設定
 - → システムコールは自動的に再度実行される
 - read(), write(), sendto(), recvfrom(), etc.

シグナル受信と関数

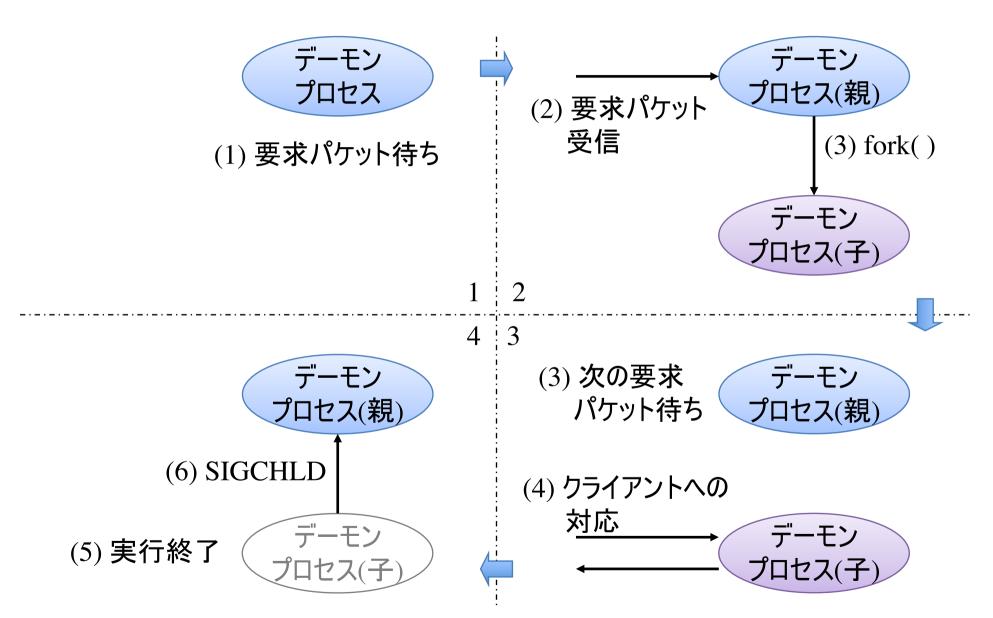
- シグナル処理関数の中で利用する関数は再入可能 (reentrant)でなければならない.
 - sigaction()のmanページなどを見ると, シグナル処理関数内で使用できる関数が列挙されている. (BSDの場合)
 - Linuxの場合, "man 7 signal" のページを参照
- 基本的にシグナル処理関数での処理はなるべく簡単にする 方がよい
 - フラグのセットなど.

デーモンの動作

- デーモン: コンピュータに常駐し、さまざまなサービスを提供 するプロセス
 - /sbin/init,メールサーバ, httpサーバ, etc.
- デーモンプロセスの例 ("ps -axj" の実行例)

USER root	PID 1	PPID 0	PGID 1					TIME 0:00.04	COMMAND /sbin/init
root root	573 636		573 636	573 636		Is Ss		0:00.09 1:45.25	_
nobody	21594	636	636	636	0	S	??	0:04.54	/httpd
root tera			45792 45792		_	Is S		0:00.02 0:00.02	

デーモンの動作



デーモンプロセスが持つべき性質

- プロセスはfork()で生成 → 親から子に性質が継承
 - プロセスグループID, セッションID, 制御端末
 - カレントディレクトリ、オープンしているファイルやソケット
 - シグナル処理関数
- 悪影響の例:オープンしているファイル
 - ファイルをオープンし, fork() → fdの指す先を親子で共有
 - 子がread() → オフセット変化
 - 親がread() → 子のread()のあとのデータを読み込む
- デーモンとして動作するには、 さまざまな "しがらみ" を断ち 切る必要あり

daemon(): 制御端末からの切り離し

```
#include <stdlib.h>
int daemon(int nochdir, int noclose);
```

• 機能

- プロセスがデーモンとして動作するためのさまざまな処理を行う
- 制御端末から切り離され、バックグラウンドへ移行する

• 引数

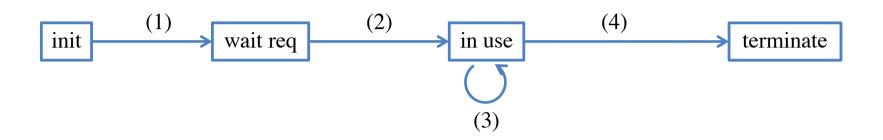
- int nochdir: ノンゼロの場合, "/" にcd しない
- int noclose: ノンゼロの場合, stdin, stdout, stderrを/dev/nullにリ ダイレクトしない

daemon()の実行例

```
#include <stdlib.h>
main()
{
    printf("pid %d\formation", getpid());
    daemon(0, 0);
    pause();
}
```

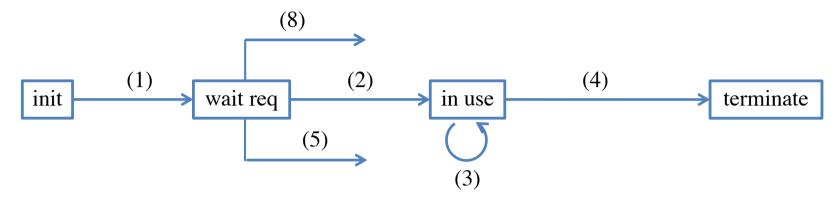
課題4:mydhcpの注意事項・ヒント

サーバの状態遷移図 (クライアントごと)



- (1) recv DISCOVER create client, alloc IP, send OFFER
- (2) recv REQUEST (alloc) [OK] send ACK [OK] (4) recall IP, del client
- (3) recv REQUEST (ext) [OK] reset TTL, send ACK [OK]

サーバの状態遷移図 (クライアントごと)



- (1) recv DISCOVER create client, alloc IP, send OFFER
- (2) recv REQUEST (alloc) [OK] send ACK [OK]
- (3) recv REQUEST (ext) [OK] reset TTL, send ACK [OK]
- (4) recv RELEASE [OK] || TTL timeout recall IP, del client

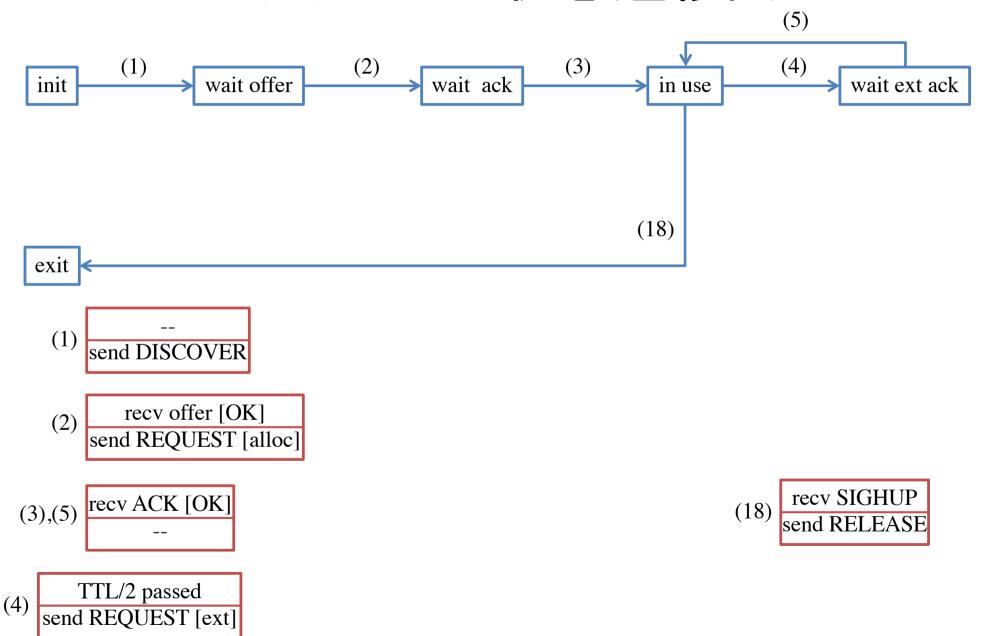
recv timeout

??

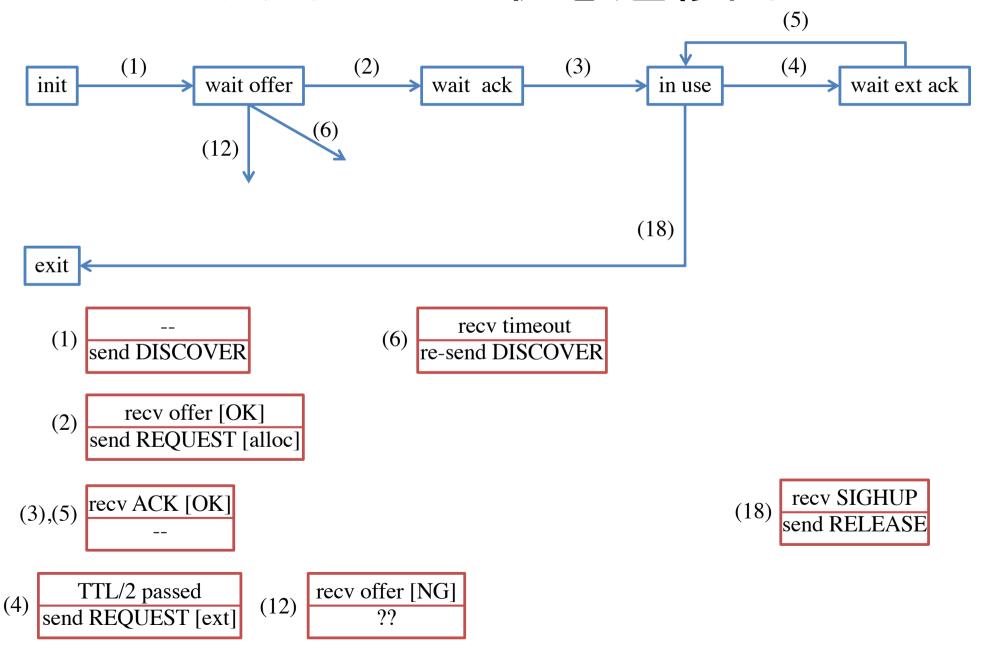
(5)

(8) recv REQUEST (alloc) [NG]

クライアントの状態遷移図



クライアントの状態遷移図



注意事項

- サーバはクライアントごとにfork()しない
 - fork()すると子プロセス間で受信パケットの奪い合いになる
 - IPアドレスプールは共有資源
- サーバはデーモンにする必要はない
 - デバッグが面倒になるので
- サーバは複数のクライアントをリスト構造などで管理
 - メッセージ受信 → 該当するクライアントを特定
 - → クライアントの状態とメッセージタイプで処理を決定

(再掲) FSMをプログラムへ: 例2 (1)

```
void f_act1(...), f_act2(...), f_act3(...), ...;
struct proctable {
  int status;
  int event;
  void (*func)(...);
} ptab[ ] = {
  {stat1, event1, f_act1},
  {stat1, event2, f_act2},
  {stat1, event3, f_act3},
  {stat2, event4, f_act4},
  {stat3, event5, f_act5},
  {stat3, event6, f_act6},
  {0, 0, NULL}
int status;
```

(再掲) FSMをプログラムへ: 例2 (2)

```
int main( )
{
  struct proctable *pt;
  int event;
  for (;;) {
    event = wait_event(...);
    for (pt = ptab; pt->status; pt++) {
      if (pt->status == status &&
                  pt->event == event) {
        (*pt->func)(...);
        break;
    if (pt->status == 0)
      エラー処理:
```

```
void f_act1(...)
void f_act2(...)
  status = stat2;
```

ヒント: wait_event()の処理

- クライアント側
 - アドレス取得前:メッセージ受信を待つ
 - アドレス取得後: SIGALRM or SIGHUPを待つ
- サーバ側
 - メッセージ受信のタイムアウトをチェック
 - 使用期限タイムアウトをチェック
 - メッセージ受信を待つ

ヒント: サーバにおけるクライアント管理

- クライアント管理用リストの例
 - クライアントごとに構造体を割当て、双方向リストで管理
 - タイムアウト管理:SIGALRMを1秒ごとに発生させ, ttlcounterを decrementする.

```
struct client {
   struct client *fp;
                           // for client management
   struct client *bp;
                            // client state
   int stat;
   int ttlcounter;
                            // start time
   // below: network byte order
   struct in_addr id; // client ID (IP address)
   struct in_addr addr; // allocated IP address
   struct in_addr netmask; // allocated netmask
                  // client port number
   in_port_t port;
   uint16_t ttl;
                 // time to live
};
struct client client_list;  // client list head
```

ヒント: サーバにおける処理

- メッセージ受信
 - 始点IPアドレスと始点ポート番号でクライアントを識別
 - client リストを検索
 - clientが存在しない場合、新しくエントリを割り当てる
- クライアントの状態とメッセージタイプで処理関数決定